

「暑さ寒さも彼岸まで」——昔の人は本当によく言ったものです。10月になりました。暑く長い夏が終わり、秋風が吹いてきています。これからようやく暑さを気にせずに学習に運動にと励める季節になりました。

本校の今月の生活目標は「本をたくさん読みます」です。子供たちが、多くの本と出会い、心を豊かにしていけるようにと願い、次のように話しました。

傍らには本を

「それはある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。

この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、

自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました」

これは、今の天皇のお母様である上皇后美智子様が本について語られたお言葉です。

本は、美智子様に「根っこ」と「翼」をくれたと話しています。

根っこは、ほかの人の思い（喜びや悲しみ）をまるで自分のことのように受け止め、その思いに寄り添うときに必要なもの

翼は、未来に夢や希望を抱き、新しい世界に飛び立っていくときに必要なものです。

本の世界は、果てしなく広いです。空より、宇宙より。

なぜなら、本を読むことで心の中に想像の世界が広がるからです。

想像することは自由です。

私が小さなスイミーになってもいいし、ピノキオを吸い込む大きなクジラになってもいい。

豆の木を登って雲の上に行ってもいいし、竜と一緒に冒険してもいい。

虎がぐるぐる回ってできたバターで作ったパンケーキを味わいながら食べてもいい。

そして本の世界には、喜びや悲しみや様々な自分と違う人生があふれています。

憧れのお妃さまになるサクセスストーリーもあるし、

大切な人や物を失う苦しいお話もあります。

そのそれぞれに、わくわくしたり、希望をもったり、喜んだり、

気の毒で涙を流したり、頑張れと励ましたくなったりします。

自分の人生では味わうことのない出来事を味わうことができます。

さらに本は、私たちの味方になってくれます。
私たちが生活を送る中で、「なんでなのだろう」と疑問に思うことはたくさんあります。
その答えがなかなか見つからなくて、悶々としている中で、
たまたま読んでいた本の中に、その答えが描かれていることがあります。
頭の中で、何かがカチツと合わさるような感覚です。
その時に、「そうか。いいんだ。これでいいんだ。」と自分を認めてあげられたりします。
本は、そうやって私たちを優しく包みながら、様々な考え方を授けてくれます。

上皇后美智子様は続けます。
「子供達が、自分の中に、しっかりとした根を持つために
子供達が、喜びと想像の強い翼を持つために
子供達が、痛みを伴う愛を知るために

そして、子供達が、人生の複雑さに耐え、
それぞれに与えられた人生を受け入れて生き、
やがて一人一人、私共全てのふるさとであるこの地球で、
平和の道具となっていくために」

本は、私たちの人生にいつも寄り添い、よりよく生きる知恵を授けてくれます。
書店に行けば、数えきれないほどの多くの本が並んでいます。
本とのよき出会いを。
そしていつでも傍らには本を。

読書の秋。
読書に親しんでみてください。